

件食物、傍官ノ禰宜ハ三百文宛、一禰宜ハ五百文被下行、  
〔雜談集三〕阿育大王ノ事

泉涌寺ノ僧ノ申シハ、舍利弗ノ一搏食ノ事ヲ律ニ一搏ノ食ヲ水ヲ以テコレヲ足トイヘリ、五穀  
水味殊勝ニシテ、人ノ器ツヨキ昔ハ尤モ然ルベシ、今ノ末世ニハ、人ヨク五穀又氣味ナシ、持齋  
シガタカルベシ、四五度モ食スベシト、此事耳ヨリナリ、鑿真和尚、日本へ渡リ給タリシ昔シハ、寺  
寺只一食ニテ朝食一度シケリ、次第ニ器量ヨクシテ、非時ト名テ日中ニ食シ、後ニハ山モ奈良  
モ三度食ス、夕ノヲバ事ト山ニハ云ヘリ、未申ノ時バカリニ非時シテ、法師原坂本へ下リスレバ、  
夕方寄合テ事ト名テ、我々世事シテ食スト云ヘリ、

〔海人藻芥〕毎日三度ノ供御ハ、御メグリ七種御汁二種ナリ、御飯ハワリタル強飯ヲ聞召ナリ、

〔武家嚴制錄四十〕家綱公御本丸御移徙之時御條目

一御臺所頭御條目

定○中略

一毎日早朝御臺所頭壹人宛罷出三度目之御膳被召上之以後迄相詰與之御臺所者勿論御表御  
臺所之間まで見廻諸事堅可申付事、○中略

右條々堅可相守此旨者也

萬治二年九月五日

朝食

〔下學集下〕下態〔朝饗〕朝饗朝飯之義也

〔運歩色葉集阿〕朝飯 朝食

〔倭爾雅六〕飲食〔饗〕本作饗、朝食也

〔倭訓栞阿前編二〕あさがれひ 朝餉とかけり、天子の朝の供御をいふ辭也、又御祝の御膳を稱す、